

# ①-Ⅱ 爪障害

爪の色が変化する、爪が変形する、爪がはがれる、爪の下の出血や膿み、爪周りに炎症がおこるなどの症状がおこることをいいます。



## 原因

主に下記の抗がん薬投与時に起こりやすいです

爪の変色	フルオロウラシル など
爪の変形	ドセタキセル、パクリタキセル など
爪周りの炎症	アービタックス(セツキシマブ®)、パニツムマブ(ベクティビックス®) など

## 出現の目安

使用する抗がん薬の種類や個人差がありますが、投与後2週間前後で認めてくる場合があります

<b>洗浄</b> (皮膚を清潔に保つ)	足の指と指の間をきれいに洗う	爪をカットしておく	爪やすりの方が爪への負担が少ない	☆参照 「①-Ⅱ-Ⅰ） 爪やすりの使い方」  爪やすりは院内ローソンにて販売あり
<b>保湿</b> (皮膚に潤いを与える)	<ul style="list-style-type: none"> <li>爪の乾燥を防ぐため、専用の<b>保湿オイル</b>を使用しましょう</li> <li>健康な爪の育成のため、オイルは爪全体特に<b>爪の付け根(爪母)部分</b>にはしっかりと塗りましょう また、指の皮膚から離れた爪の裏側は乾燥しやすくもろくなりやすいため、<b>裏側にも忘れずに塗りましょう</b> ★爪専用の保湿オイルは院内ローソンで販売。</li> </ul>			爪母
<b>保護</b> (皮膚への刺激を避ける)	<ul style="list-style-type: none"> <li>抗がん薬治療中は手のしびれによる感覚低下で、<b>やけどや指先のけがに注意が必要です</b></li> <li><b>保護手袋の使用</b>や、米とぎ器・無洗米の利用で爪を保護しましょう</li> <li>洗髪時には目の粗いシリコン製ヘッドマッサージブラシを使用すると髪が爪に引っかかるのを防げます</li> </ul>			

爪が割れる 欠けるもろい爪	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>リムーバー不要のマニキュアやピールオフタイプのジェルネイル</b>を使うと爪を傷めず保護できます(1週間ごとの塗り替え推奨)</li> <li>通常のジェルネイルは爪を削るため、化学療法中はおすすめできません。また、爪の保護には<b>爪テープの使用も効果的</b>です(院内ローソンで販売)</li> </ul>			
爪まわりの炎症が 起こった場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>爪の側面(横側)が炎症によって腫れて痛い場合は、<b>スパイラルテーピング法</b>で、<b>テーピング</b>をすることで、腫れによる痛みを和らげることができます</li> <li>保湿剤やステロイド外用薬を塗る場合は、<b>先にテーピング</b>を行いましょう 手足をよく洗って、<b>水気を完全に拭き取ってから</b>、<b>テーピング</b>を施し、その後テープと爪の隙間に薬を塗ります</li> </ul>			弾性テープ (テーピング法)

ご連絡  
 いただきたい状況

熱感や疼痛など感染症の可能性があり、  
 痛くて歩けない、物が持てないなど日常生活がづらい時 など

TEL. 078-261-6711

平日 (8:30~17:00) ⇒ 各診療科が対応

時間外 (17:00~翌8:30) 及び土・日・祝日 ⇒ 救急外来が対応